



がん診療病院におけるがんに関する認定看護師等状況調査結果

1. 調査の目的

がん診療病院における認定看護師等の状況等を把握し、今後の第三期青森県がん対策推進計画の進捗確認の参考とする。

2. 調査期間

令和3年7月

3. 調査方法

青森県がん診療連携協議会に参画している医療機関に電子メールで調査票を配布して実施。

4. 回答数

青森県がん診療連携協議会に参画している18医療機関のうち、13医療機関から回答。



問1 認定看護師等の配置状況

看護師区分	職員数	39歳以下	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
がん化学療法看護認定看護師	18	3	6	3	4	1	1
がん看護専門看護師	4	1	2	1			
がん性疼痛看護認定看護師	2	1	1				
がん放射線療法看護認定看護師	1				1		
緩和ケア認定看護師	20	8	5	4	1	2	
手術看護認定看護師	4	2	1	1			
精神看護専門看護師	3		1	1	1		
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1		1				
乳がん看護認定看護師	2		1	1			
皮膚・排泄ケア認定看護師	16	1	3	4	1	6	1
慢性心不全看護認定看護師	2	1			1		
認知症看護認定看護師	2		2				



問2 認定看護師等の活用

- ・ それぞれの専門分野に関連する部署に専従で業務に従事
- ・ 患者や家族からの相談対応
- ・ 患者ケア、面談、指導
- ・ 院内の職員(看護師等)の研修会、勉強会の講師
- ・ 院内スタッフ(看護師)からの相談対応、指導、教育
- ・ 院内の委員会への参加
- ・ 院内のチームに参加し、多職種と活動
- ・ 院内のチームリーダー
- ・ 院外の研修会の講師
- ・ 看護協会の依頼等による地域の施設等での講師
- ・ 地域の病院や施設等へ指導のために派遣
- ・ 地域の病院や施設等へのコンサルテーション
- ・ オープンセミナー開催、公開講座開催



問3 認定看護師等の職員数に対する認識

現在の職員数で充分	2
現在の職員数で不足	11



不足人数：27名（9施設計）
（2施設は不足人数の回答なし）

○ 不足している看護師区分

- ・ 摂食・嚥下障害看護認定看護師 （6施設）
- ・ 皮膚・排泄ケア認定看護師 （5施設）
- ・ 認知症看護認定看護師 （5施設）
- ・ がん化学療法看護認定看護師 （3施設）
- ・ がん看護専門看護師 （1施設）
- ・ 化学放射線療法等看護認定看護師 （1施設）
- ・ 緩和ケア看護師 （1施設）
- ・ 乳がん看護認定看護師 （1施設）

※ 看護師区分ごとの不足数は確認していないため、不足人数と施設数の合計は一致しない。



問4 認定看護師等の確保における課題

特段の課題はない	1
確保の課題がある	12

○ 確保における課題 (複数回答)

- ・ 認定看護師受講の希望者なし、適切な人材の選択 (8施設)
- ・ 看護師不足であり、長期間の研修に派遣が困難 (5施設)
- ・ 認定看護師の教育機関(教育課程)が県内にない (4施設)
- ・ 認定看護師研修期間中の職員の人件費、生活費 (3施設)
- ・ 家庭環境等の職員の個別事情により受講が困難 (1施設)
- ・ 特定行為研修受講者が多く、認定看護師研修の受講との調整が困難 (1施設)



問6 認定看護師等に関するご意見・ご感想・ご要望

- ・ 青森県全体の看護への貢献を考えると、地域への貢献をもう少し実施することができれば良いのではないかと考える。
その場合、当院で業務を行う看護師が減少することが危惧される。
- ・ 地域包括ケアシステムの推進に向け、専門性の高い認定看護師の他に、特定行為研修修了者を有効に活用する必要性を感じている。
- ・ 認定看護師は社会の資源として有効活用すべき。
- ・ 認定看護師取得後の活用が難しい(当人と組織の方向性の違い、周囲の職員との関わりの問題等)
- ・ 青森県内での養成課程開講を是非お願いしたい。
- ・ 青森県内(五所川原市近辺から通える範囲)に、認定看護師育成機関があることが望ましい。
- ・ 複数名いる分野もあるが、世代交代の時期が近づいている分野もあり、後進の育成に苦慮している。
- ・ 育成のための助成金の拡充。